

F51 290 X46

昭和二十二年度科学研究費各研究調査			
審査要求部門	理学研究協議会 1 部 (14部ニアツテハ哲史又ノ別)		
提出機関名	※ 京都帝國大學理學部 Faculty of Science, Kyoto Imperial University		
研究課題	※ 中間子の理論 Theory of Meson	研究担当者 官職氏名	※ 京都帝國大學教授 湯川秀樹 Professor of Kyoto Imp. Univ.
従来受けた 研究費額ト具 山所年度別	昭和20年度 1,500 (経費) 21年度 3,000 (経費) 計 4,500 出所 京都理學研究所	本年出願費 研究費以内 計 25	人件費 6,000 <sup>1)</sup> 圖書費 2,000 社費 2,000 計 10,000 <sup>1)</sup>
研究開始期	昭和22年4月	研究完了 期定期	昭和25年3月 備考
専攻科目及經歷 該案(卒業論文 ト大テ言ム)	物理 昭和4年 京都帝國大學理學部卒業		
他ノ補助申請	未定	現任所	京都市上京区上賀茂 神屋町18

- 注 意
- 1 半紙半枚(用紙隨意)
  - 2 ※印欄記載事項ニハ必ず其ノ英語ヲ併記シテ下サイ
  - 3 備考欄ニハ前年度科学研究費ニヨル研究ノ繼續デアル研究要求デアラカフ  
記入シテ下サイ
  - 4 一昧過母ニ四枚宛作製シテ下サイ
  - 5 研究目的及方法ハ要點ノカルヤウニ別紙ニ記載ノ上ニ添付シテ下サイ

研究の目的及方法

中間子の理論的研究は次の二つの方法に大別される。第一は中間子の  
本性に関する種々の可能な假説を生ずる。理論を原子核及び  
宇宙線に関する実験結果と比較検討し、正しい假説を  
據る方法であり、第二は中間子を媒介する素粒子の一般理論を建設  
することによって、中間子自身の理論自身を矛盾なきに調和する理  
論を同時に構成しようとする方法である。この二つの方法の区別が  
出来たが、本研究においては特に第一の方法を以て重視を置き、  
混合場理論、中間子の理論に関する詳細な検討を行なうと思ふ。